

2022.10.20



地域日本語支援ニュース こだま 第 424 号

ともに生きる  
～地域で、日本で、そして世界で～



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部： <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

=====

■ともに生きる：広島県広島市から(1)■

今年は日中国交正常化 50 年の節目の年です。広島市の基町（もとまち）には、中国残留邦人（注 1）の方々が多く居住しています。被爆地・広島の復興の象徴にもなっている「基町アパート」は、広島市の再開発計画により 1978 年に完成した高層・中層の集合団地で、外国人住民も多く暮らしています。この地区にある基町小学校をはじめ、広島市の公立小学校で、日本語指導教室の担任を長年務められている栗栖（くりす）さんに、今の想いを 2 回のシリーズでご寄稿いただきました。日本語指導教室「世界なかよし教室」については、426 号で詳しくお届けします。

.....

基町っ子とともに  
広島市立基町小学校教諭  
栗栖 佳代

#### ◆「虹の杜」

「虹の杜」に今年もオーシャンブルーの花が咲いている。高さ約 6 メートルのフェンスに弦を巻き付けながら高く高く伸びていく、琉球朝顔とも呼ばれるこの植物は種がとれない。6～11 月まで咲き続け、球根で越冬するという。いつの頃からかここに根付いている。太陽の光を受けてどっしりと根を張り、大輪の花を咲かせるこの宿根草はエネルギーだ。

「虹の杜」とは私が勤務している基町小学校の校庭にある緑地のことで、ヤマモモ、ゲッケイジュなどの他に「アオギリ 2 世」「エノキ 3 世」という被爆樹木（注 2）の子孫が植樹されている。

#### ◆平和の軸線

原爆の爆心から北へ 1km、広島城の西側に基町小学校はある。児童数 80 名の小規模校だ。「平和の軸線」という言葉をご存知だろうか。軸線とは、原爆ドームと原爆死没者慰霊碑を結ぶ直線のことである。基町小学校は、建築家大高正人により設計された小学校で、軸線上に設置され、保育園と幼稚園と小学校が一体となっている。

小学校の校区は市内最大規模の公営住宅群「基町アパート」である。8～20 階建ての 17 棟あるアパートに約 2,400 戸、4,000 人（令和元年 4 月）が暮らしている。1980 年頃から中国残留邦人の引き揚げ後の定住地として入居が始まった。その後、残留邦人の子どもとその家族が呼び寄せられ、小学校にも中国帰国児童が編入するようになり、平成 2 年度には日本語教室が開設された。それが「世界なかよし教室」だ。

#### ◆世界なかよし教室

現在広島市には小学校 4 校と中学校 2 校に日本語教室が設置されているが、本校は日本語学習教室拠点校として位置付けられている。公営住宅の高齢化とともに、全校児童数は減少しているが、一方で留学生の子どもや国際結婚家庭の子どもなども増加の傾向にあり、帰国・外国人児童は全校児童の約 50% を占めている。児童の関わる国は主に中国とネパールである。

私は 2011 年から 7 年間「世界なかよし教室」で外国につながりのある子どもたちと関わってきた。4 年前に異動となり市内の他の小学校に転勤したが、今年 4 月に再びここに戻ってきた。不思議な縁を感じている。当時 1 年生だった基町っ子たちはいま最高学年となり、下学年を引っ張る頼もしいリーダーに

なっていた。

在籍学級ではおとなしい子どもたちだが、日本語教室ではまるで別人のようだ。屈託のない笑顔でよくしゃべる。来日したばかりのネパールの友達に「不、不是、椅子（椅子じゃない）。これ卓子（机）」などと、聞いてもわからない中国語を交えて懸命に物の名前を教えようとする中国の子どもの姿に思わず苦笑してしまう。

基町小学校には特別の場所があるのでいくつか紹介しよう。

#### ◆通学路

基町っ子たちは、車道を横断することなく学校に来ることができる。アパートと小学校間が専用の通路でつながっているからだ。体育館横のスロープを上がると児童館や集会所があり、飲食店街の屋上に出る。そこから放射線状に広がる通路があり、子どもたちはこの陸橋を通して登校する。この通学路は、毎朝地域の方々が子どもたちの様子を見守ってくださり、地域と子どもたちをつなげる場ともなっている。

#### ◆プール

この夏、水泳指導が3年ぶりに再開された。子どもたちは大喜び。しかし...「わーっ。水、冷たい、寒いよ。」と悲鳴があがる。仕方がないのでパネルヒーターのスイッチを入れる。なぜか？ それは、プールが体育館の下の地下にあるからだ。おそらくこのような小学校は全国でも珍しいのではないだろうか。外気温が30度を超えていても暑くない。プールサイドに水をまく必要もないし、日焼けの心配もないのがうれしい。

中国から来た子どもたちの多くは水泳を嫌う。だが、日本語教室の教員も交替で監視、支援しているうちに、少しずつ泳げるようになると表情も変わる。自信を持ち、頑張って挑戦する姿がそこにある。

#### ◆童話の世界

「にじの部屋」「森の部屋」という名前の図書室がある。壁面から天井にかけて虹と大きな樹木が描かれている。そして、図書室から続く階段や踊り場、ラウンジや廊下には「かぐや姫」「かきこじぞう」「浦島太郎」「ガリバー旅行記」「おやゆび姫」「ジャックと豆の木」などの童話の世界が広がる。赤い消火栓ボックスは竜宮城の入り口だ。大学生らが協力してこれらの壁画を描いたそうだ

が、これも基町っ子の宝物の一つだ。私は子どもたち一人ひとりが本に親しみ、より多くの本に出会ってくれたらいいなと思っている。そのために、日本語と多言語での読み聞かせをしたり、世界の国の文化や言葉、生活などを紹介するコーナーを設置したりして、子どもたちが自分とつながりのある国のことを知りたい、興味のあるものについてもっと読みたいと思えるようにこれから取り組んでいくつもりである。

#### ◆明日も爽やかに

アパートの外観は灰色のコンクリートの塊、それはまるで大きな巨人のようだ。だが、無表情な建造物の中にそこで暮らす人々の温かい息遣いを感じる。今日もどこからともなく子どもたちの「せんせーい！」と呼ぶ声が聞こえてくる。道端で中国語がぼんぼん飛び交う。私はこの活気に満ちた基町が好きだ。基町っ子たちがこの地で守られ、幸せに過ごせるように、あのオーシャンブルーのようにたくましく大きく成長してほしいと願っている。

#### 注 1 中国残留邦人：

戦前・戦中に旧満州（現中国東北部）に渡り、終戦の混乱で現地に取り残された日本人のこと。1972 年の日中国交正常化を機に両政府の身元調査が進み、これまで約 6,700 人が永住帰国した。

#### 注 2 被爆樹木：

広島では爆心地から概ね 2km で被爆し、再び芽吹いた約 160 本の樹木を登録している。

「広島市公式ホームページ」被爆建物・樹木・橋梁について

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/atomicbomb-peace/9226.html>

「基町小学校ホームページ」

<http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=e0890>

---